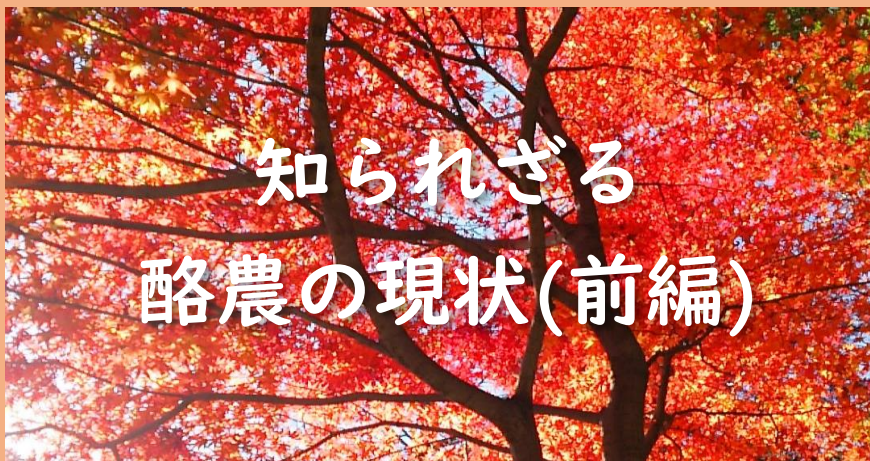


協同乳業の旬な情報をお届け！

# MEITO ONLINE TIMES!

～VOL.6～

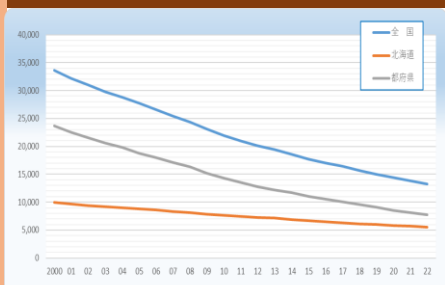
2023.11



## 知られざる 酪農の現状(前編)

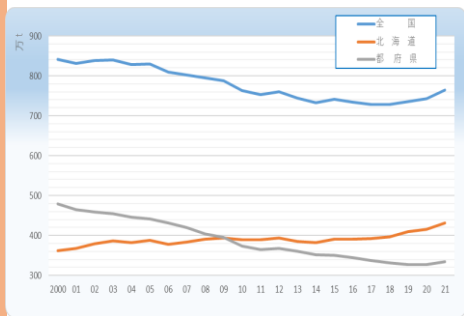
### 減り続ける日本の酪農戸数と生乳生産量

#### 日本酪農の厳しい現状



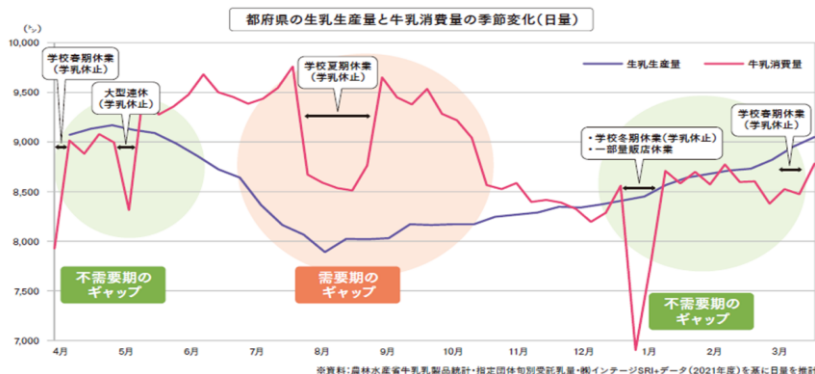
	生産者 (戸数)		
	全国	北海道	都府県
2000年	33,600	9,950	23,700
2022年	13,300	5,560	7,740
2000年比	39.6%	55.9%	32.7%

▲農林水産省「畜産統計」



	生乳生産量 (t)		
	全国	北海道	都府県
2000年	8,414,523	3,622,237	4,792,286
2021年	7,646,519	4,310,941	3,335,578
2000年比	90.9%	119.0%	69.6%

▲農林水産省「牛乳乳製品統計」



▲農林水産省牛乳乳製品統計指定団体旬別受託乳量(出典:Jミルク)

**都** 府県における一般的な酪農家は家族経営が多く、夫婦2人であれば飼育頭数約70頭、育成牛10頭ほどを育て生乳を生産しています。現存している酪農家の中では北海道をはじめ大型化が進む一方で、「生き物」であるがゆえ1年通して休みがなく、また円安の影響で飼料や燃料費、耕作機械の高騰も重なり日本の酪農戸数は**2000年対比で約40%まで落ちこんで**います。それに伴い生乳生産量も1996年をピークに年々落ち続け、循環農法含めた基盤強化をした北海道以外は、外部環境や高齢者問題も相成り、減少の一途を辿っています。

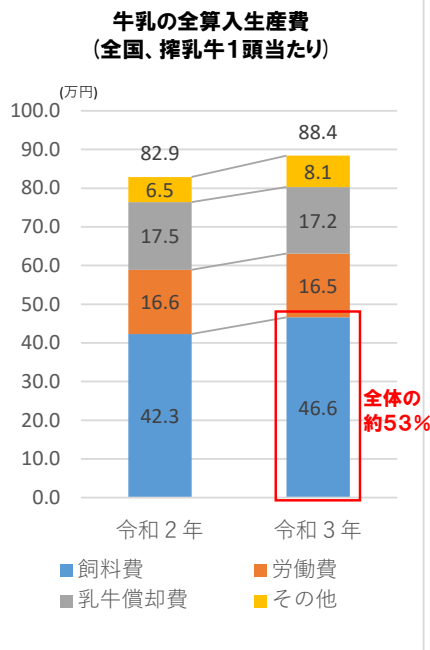
### 生乳の需給状況について

**生** 乳を生み出す日本の乳牛(ホルスタイン種)は冬場は乳量が多く、夏場は自身の体温調整に体力を使うため夏秋は乳量が落ち供給量が減ります。しかし牛乳消費量は6～9月あたりまでピークを迎えるため、**実は必要とされる量と供給にギャップが生じています。**都府県では生乳生産量の減少により需要に対する不足量も年々増加しており、

そのギャップを埋めるため、北海道・東北・九州から生乳が輸送されています。一方で春休みや、冬休みなど学校給食がない期間は需要が落ちるため、その期間は**余乳を加工向け生産に切り替え**対応しながら、需要と供給のバランスを整えるよう日々対応されています。

# なぜ今、酪農経営は難しい？生産者を取り巻く厳しい環境

## 牛乳生産費の高騰



▲令和3年の牛乳生産費(農水省統計より抜粋)

## 搾乳牛1頭当たり投下労働時間

(令和3年の全国の牛乳生産費/農水省統計より抜粋)

令和2年	96.88時間
令和3年	<b>96.84時間</b>

【時間イメージ】※一般的な飼育頭数を70頭で設定

- 70頭×96.84時間=約**6779時間**/年  
↓**365日休みがないため**…
- 約6779時間÷365日=**18.57時間**/日  
★毎日休みなく働くが、給与が上がる見込みは  
難しく物価高で先行き不透明=酪農多数!



# 乳

価改定のニュースを近頃耳にする機会が増え、少しは生産者に還元されていると思う方も多いかもしれません。しかし実はその裏で経営難により多くの酪農家の離農が進んでいます。左図は令和3年度の牛乳生産費ですが、円安の影響で生乳100kg当たりの飼料費が全体の約53%を占めており経営を圧迫していることが分かります。一方で乳価改定を行っているにもかかわらず、酪農家の手取り(労働費)はほぼ横ばいの状態が続いています。令和4年度はこの図よりさらに円安が進み、電気代や世界情勢不安からの耕作機械の高騰、仔牛の売却相場下落による減価償却のバランスの乱れなどで経営難に陥る多くの酪農家が存在しているのです。

## 決して楽な生活設計ではない現状

# 令

和3年の統計によると搾乳牛1頭当たりの投下労働時間は実績値で96.84時間を要しています。

仮に一般的な飼育頭数70頭で計算すると年間総労働時間は6779時間となり、1日の労働時間は約18.6時間にも及び、1年を通して休みがありません。そこに配合飼料の高騰(昨対135%増)や、夏場の牛舎の扇風機やバルククーラーの稼働に伴う電気代の高騰(昨対107%増)、情勢不安からの円安に伴う国産・海外製品の耕作機械の高騰、研修生やヘルパーなどの人件費などの諸経費がかさむことで、最終的な所得は令和4年以降で夫婦2人で年500万円程度になる見込みとなっています。このような厳しい現状を踏まえ、搾乳ロボットの購入、堆肥場の改善などを酪農家が投資できる環境を整備していくなどの酪農の就業モデル改善が急務なのですが、実際は難しく多くが離農に追い込まれています。

出典/酪農の現状について(令和4年版)

Next Issue(2023.12)☞

## 知られざる酪農の現状(後編)



協同乳業株式会社

お問い合わせ

▼メイトーオンラインショップサイトはこちら▼

<https://www.meitonline.com/>

★MEITO ONLINE TIMES!のバックナンバーはこちらから▶

ご意見・ご感想は  
お問い合わせ欄より  
お気軽にご連絡ください!

